

雨よけ(ようやく)完成しました...

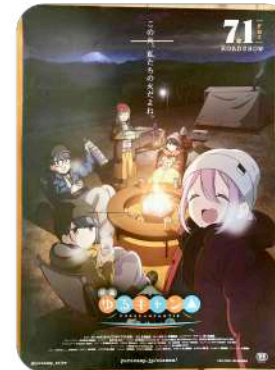
前回冬の数でお伝えしました、黒葡萄の雨よけが5月の末にビニールを貼り終えて完成しました。東西にも南北にも傾斜がある園地のため、想定よりも手間がかかり、葡萄の芽が出てまだまだ出来上がりませんでした。また斜面の下の方ではものすごく背の高い屋根になりました。

ところで簡易雨よけは、葡萄の房に雨がつかないようにしていますが、他の葉や地面には雨が当たりますので、水やりは天候次第です。一方、今回完成した雨よけでは、灌水設備で行うのでこちらの考えで樹体の水分コントロールができます。また、葉と屋根のビニール部分の距離があり外部との温度差が少ないため、高温になると色づきがしにくくなる黒ぶどうにも影響が少ないとされています。この雨よけで、思い描く葡萄が少しでも多く作れるように頑張ります！



映画「ゆるキャン△」を応援しています！

「ゆるキャン△」でご存じですか？山梨県周辺を舞台に、のんびりとしたアウトドアライフを展開する女子高校生たちのゆるやかな日常を描いているアニメです。今年7月1日に公開された映画では、な・なんと、カノハジュースが映っています！と言っても一瞬のため、見つけることは困難かも知れませんが...でも、エンドロールにはカノハの名前を見つける事ができますよ。映画をご覧になる方は是非とも注意深く観察してみてください〜



ゴーカートで取り組むSDGs！

カノハ園地では草生(そうせい)栽培による土壌炭素貯留や、炭の活用を行っています。草生栽培は、雑草を生やして樹園地の土壌を管理することです。効果はいろいろありますが、主に①土壌微生物の増加、②雑草を刈りこむことによる有機物の補給、③土壌の硬化防止、などがあります。実際は「雑草を生やして刈る」だけの話ですが、草が伸びることのなんと早いことか。この草生栽培にもっとも重要な農機がコチラ、ゴーカートではなく「乗用モア」と言います。就農して数年たって購入(中古)した1代目が、いよいよ動かなくなり2代目(また中古)に更新しました。これで広い樹園地をブンブン走り回るだけでアツという間に草刈りができます。ちな



みにこの農機のメーカーが付けた名前、草刈り「まさお」といいます。また、苗木植付の際には、剪定枝を燃やして作った炭を土壌改良材として入れています。土のために行っていたことが、地球温暖化の防止に役かっているという嬉しい結果は、まさにSDGs(持続可能な開発目標)な取り組みですね！



続・畑に現れる生きものたち

自然界の中には大小さまざまな生きものがありますが、カノハの園地にもよく見るといろいろな生きものがいます。今回はタヌキやフクロウなどの比較的大きな生きものを紹介しましたが、今回はもっと近寄って見えます。まずはニイゼミの脱殻。写真の外側にもびっしりついていました。なんだかナウシカに出てくるオウムにもちよつと似ていますね。昨年カラスが何かに攻撃されて孵ることがなかったカワラヒワが今年も卵を温めています。葡萄の作業で近づいていくと親鳥はしばらくどこかに姿を潜めます。その間にパチリ。葡萄の粒抜き作業中、房の中からクモが飛び出してくることもたびたび。卵を抱いていたようです。でもごめんさい、房の中の卵は除かせてもらいます。そして農家を困らせるカミキリムシ。不自然にふっくらしている枝を切ると、切り口からひょっこり頭を出して体操しているかのように首をゆっくり回します。あまり気持ちよくありませんが、思わず見入ってしまいます。エンピツの太さほどの穴から生えてきたのはクローバー。規則正しく空いた穴のそこかしこから芽生える姿に生きものの力強さを感じます。最後は小さい人間、小学生次男のクラスの子供たちがやってきました。果樹は地域の産業です。果樹は地域の産業です。親世代で農家をやっている家は少なく、果樹園は意外と新鮮だったようです。

- 1.ニイゼミの脱殻たくさん。/ 2.カワラヒワの卵今年孵ることができるのか!/? 3.校外学習で来た小学生たち/ 4.クモと卵/ 5.葡萄の枝に潜むカミキリムシ/ 6.反射シートの穴のいたるところから出るクローバー